

令和 8 年度 第 1 回

小国町総合教育会議

会議録

小国町

令和8年度第1回小国町総合教育会議 会議録

1. 召集年月日 令和8年8月24日（月）
1. 召集の場所 おぐに町民センター301会議室（議場）
1. 開 会 午後1時30分
1. 閉 会 午後3時17分
1. 出席構成員
- | | |
|---------|----------|
| 小国町長 | 渡邊 誠次 君 |
| 小国町教育委員 | 木下 勇児 君 |
| 小国町教育委員 | 時松 比佐代 君 |
| 小国町教育委員 | 石松 愛子 君 |
| 小国町教育委員 | 井上 健作 君 |
| 小国町教育長 | 村上 悦郎 君 |
1. 欠席構成員 な し
1. 傍 聴 者 な し
1. 説明のために出席した職員の職氏名
- | | |
|----------------|----------|
| 小国中学校長 | 島田 憲臣 君 |
| 小国小学校長 | 杉本 敏也 君 |
| 総務課長 | 松本 徳幸 君 |
| 教育委員会事務局長 | 後藤 栄二 君 |
| 教育委員会事務局次長 | 中島 こず恵 君 |
| 教育委員会事務局学校教育係長 | 新家 龍太郎 君 |
| 教育委員会教育指導員 | 荒木 完二 君 |
| 総務課課長補佐 | 大蔵 将充 君 |
| 総務課総務係長 | 永野 貴大 君 |
1. 会議内容 別紙「令和8年度第1回小国町総合教育会議次第」のとおり

会議の経過及び顛末

1. 開 会

事務局：大蔵総務課課長補佐

2. 町長挨拶

構成員：渡邊町長より挨拶

3. 教育長挨拶

構成員：村上教育長より挨拶

4. 出席者紹介

別紙「令和8年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿」のとおり

5. 協議事項

構成員：渡邊町長が小国町総合教育会議設置要綱により議長となり、議事を進行する。

1) 令和8年度「小国の教育改革プラン」について

2) 令和8年度の取り組みについて

村上教育長、杉本小国小学校長、島田小国中学校長が資料により説明

構成委員の意見

○ 木下委員

教育長の資料3枚目の令和8年の取り組みで、本年度から開始した小国町伝統文化体験教室、獅子舞・下城楽の伝承ということで、具体的にどういった子どもたちがどのように関わっているのか、取り組みを行っているのか分かれば教えていただきたいと思います。

あと、先ほど挨拶の中でも少しありましたが、子どもたちの安心安全というなかで、もう本当暑い日が続いています。小国もお盆を過ぎたら涼しくなるというような言い伝えもありますが、もう数日後には夏休みが終わり、学校が始まります。まだまだ小国でも35℃に近いような気温が続くということで、特に歩いて登下校する子どもたちの暑さ対策ですが、先ほどコンテナの涼む場所という話もありましたが、実際にまだ小国ではそういうところはありません。先日、青少年健全育成でも少し話題に上がっていたのですが、例えばネッククーラーみたいなものを朝は持って行けるんですね。家で冷やせばいいので。でも帰りは常温に戻っていて使えない。特に帰りのほうが厳しい。小学生は15時、16時の下校になりますので、非常に厳しい暑さの中なので、そういった部分での暑さ対策等について、何か協議、検討がされているか伺いたしたいと思います。

○ 村上教育長

ありがとうございます。伝統文化ということで、資料が3-2、3-3になります。まず、資料3-2が獅子舞です。奉納行事に向けた指導ということで、5年生の放課後子ども教室もこの活動に参加をさせていただくことになっています。そのほかにも希望があればということになります。それと、資料3-3が下城楽ということで、放課後子ども教室の子どもたちには、とにかく参加・活動ということで、そのほかにも希望があればといったところで体験活動として進めていきたい。

暑さ対策のほうですが、具体的には何も目に見えるものはやっていないというようなことですが、1学期先生と話したのは、とにかく帰るとき、暑い中を帰りますので、町民センターの通りのところは、町民センターで休んでいいですよとか、郵便局のところで休ませてもらってくださいとか、ただ、倉原方面にはないので、隣保館などで暑いときは休んでくださいというような声をかけてくださいとお願いしているところで、先ほどありました幾つかの自治体にありますコンテナでのクーラー室も倉原の方面にと勝手に思っているのですが、そういったところも、もうこんなに暑いので本当に考えないといけないなと思っているところです。小学校から何かありますか。

○ 杉本校長先生

はい。ありがとうございます。一学期末に子どもたちの下校の様子を車等で見て回ったんですけど、やっぱり休んで帰っているようでした。そのように指導しましたので、日陰のところで休んで帰っているなと思っているところです。徒歩で登下校する子どもたちの距離っていうのは分かっていますので、先ほどご指摘いただい

たネッククーラーの使用については、お家のほうで持っておられる子どもがいるならば呼びかけて、学校で冷やして、そういったものをつけて帰るといったことをこれから先、どの程度の暑さなのか分からないんですけども、取り組んでいければというふうに思っています。

○ 時松委員

お疲れさまです。きれいにまとめていただきありがとうございました。二つ質問があります。隣保館で姜（カン）さんが来られたときとか、小国高校入学前の入試などで、自分の考えや疑問、それをきちんと人に伝えたり、先生からの質問に自分の考えをはっきり言える、そういうのが前期募集のときの課題としてあって、その試験を受けた方が小国からは誰もいなくて、後期募集で受けたっていうのをちょっと聞いたんですが、その前期試験を受けた時に、きちっと自分の考えを伝えたり、言える人が入学してからの成長がものすごいと聞きました。この中でSOSが言えるっていうのは、小学校の杉本先生から説明がありましたが、本当に自分の気持ちとかきちっと伝えられる、授業参観とかを見ている、手を挙げて分かりませんって言える、その成長が見られたときに1年前はそれさえも言えずモジモジとなっていた子どもさんが、次の年にそれを言えてたっていうのを見て、びっくりして、よかったと思ったんです。そういう自分の考えを持つとか、まとめるとか、そういう時間が今必要になっているんじゃないかなと思いました。暑くてなかなか外に出られない日も増えています。お家にいるときも、それを携帯やゲームのほうに持っていないで、そんな時間があるといいなあと思いました。

あと、不登校の件なんですけど、どこの教室でと言いますか、それを実際始めるのか。具体的に先生が、生活支援の先生、もう1人おられると先ほど言われていましたが、具体的に教えてほしいです。

○ 村上教育長

それでは、不登校の件から、新家係長よろしいですか。

○ 新家学校教育係長

不登校関係につきましては、私のほうからご説明をさせていただきます。お手元に配付しております資料4をご覧ください。こちらの資料は、夏休みが明けましたらすぐに小中学校の児童生徒の皆さんにお配りをする予定にしているところですが、校内教育支援センターということで、基本的にはこちらに書いておりますビックリマーク（感嘆符）赤色のほうですけど、まずどんなところかというと教室に登校することが難しい、友達もいるけど何だか教室がしんどい、つらいというようなお子さんに寄り添い支援する場所として設置したいというところと、また、開設時間については、基本的に週2日程度という予定を持っておりますが、そのお子さん、保護者の方がどのように利用していくといいだろうかとこのところを学校の先生と一緒に考えながら利用していくような形が作れたらなと思っております。

設置場所につきましては、小国小学校の南棟ですが、こちらは資料11をご覧ください。運動場の右側に南棟がありますが、そこに学習室と書かれた部屋があります。こちらが校内教育支援センターとして利用する教室にさせていただいております。

す。不登校となり得るお子様に関しては、なかなか学校そのものに行きにくいというところもあるかとは思いますが、まずは校内にそういった場所を設けて、そこに学習支援員、生活支援員の先生方を小中学校にそれぞれ1名ずつ配置をさせていただいて、寄り添うかたちで支援をさせていただきながら、担任の先生との連絡、連携をとりながらやっていくというところを第一前提として考えています。まだ動き始めの段階ですので、今後そのお子さん一人一人に寄り添ったニーズであったり、状況も変わってくるかと思しますので、そこについては、また新たに考えていきたいなと思っています。また、不登校生のみならず、その傾向にあるお子さんも利用できるようにしておりますので、保護者の方もしくは学校の先生から、そういう子どもたちにも促しをしていくことを考えております。不登校、その傾向にあるお子さんを限りなく減らせるように、小国町のほうで対策を講じたというようなかたちになっております。

○ 村上教育長

入試のときですが、今年はゼロでしたが、それまで中学生はグループで探求学習されていましてSDGsのことなど、その発表をしていきますが、その発表したこと、その資料あたりが入試のときにそれを基に発表するよとか、そういうのを上級生が次の学年に紹介しているときもありましたが、今年はそれじゃなくて、一般入試のほうでと、一貫教育の入試じゃなくて、一般入試のということで、そうすると幾つもあるからほかのところも受けられるっていう、かどろかは分かりませんが、とにかく今までは小中一貫教育の入試の時はそうであったんですけど、去年はそうではなかったということで、その数字がゼロというのが出ていたんですが、決してやっていないということではないと思います。

○ 時松委員

そうやって自分を表すとか、自分の人生を考えると、やりたいことを考えると、そういう時間が本当にその人一人一人に必要なんだなというのを思いましたっていうところの話でした。

○ 村上教育長

了解しました。先ほど探求学習がキーワードですよと言いましたが、仕事場に行って、その仕事場に自分を重ねて見る、キャリア教育じゃないんですけど、自分がその立場で考えてみてとか、自分がもし本当に小国町のこの職場にいたら、どういうふうに考えるとか、自分事として考えようとか、何かそんなことを昨年中学生に話され、やっぱりしっかり考えて、いろいろな立場で自分のこととしてっていうことは大事にされているなというのは、いろいろ学習を見ながら感じているところではあります。今から大事になっていく教育のところであります。しっかりされていると思います。

○ 石松委員

お話しいろいろありがとうございました。小学校と中学校少しずつ、ちょっと感想も含めてお話しさせていただければと思います。まず、中学校ですけれども、8年生のテスト結果といいますか、それがなかなか7年生のときから伸びていないと

いうのがあるのかなと思います。8年生は不登校の子どもの数字だけで見ると、ほかの学年よりもちょっと多いかなというのがあるので、学習面とかもそういったところが関係してくるのかなと思っておりました。

生徒会の活動でスタディウィークの様子の写真などもありましたが、9年生がその下の子どもたちにテスト前に勉強を教える、とてもいいなと思ひまして、9年生の子どもたちは過去2年間の振り返りもできるし、下の子どもたちが上の子どもたちに教えてもらうことで、自分たちがこれからこうなっていくんだという姿も見えらる。とてもいいなと思ひます。

前任の校長先生のときにフォーサイト手帳をされていたけれども、なかなか定着が難しいと言われておられまして、自分の毎日のスケジュール、長期的に見たスケジュールというか、こうなりたいという姿を明確にするのが子どもたちにとってやっぱり難しいのかなとお話しされていたのを思い出しながら見ておりました。勉強においても、それ以外のところにおいても、やっぱりこのフォーサイトの活用というのはとても大切かなと思ひるので、もっとしっかりと定着できるといいなと思ひます。

続いて小学校ですけど、小学校の不登校の子どもというのが、今小学校いるのかなと思ひていますが。

○ 杉本校長先生

今0人です。1人フリースクールに行っていた子どもは、実質うちの学校には来ていません。うちの学校に出席がないってということで向こうに行っていたんですけども、夏休み明けからうちの学校に通いたいということで、夏休みにも今までの勉強をちょっと取り戻したいということで、担任の先生のところに来て勉強して、明後日から通学する予定です。欠席で気になる子がいるんですけども、いわゆる線引きがあっている。県の教育委員会と線引きがあっている30日とかそういった感じのところは今のところ不登校傾向も併せて今のところうちの学校にはいません。ただ、9月、10月、持久走大会前とかは増えてくる傾向にあります。

○ 石松委員

ありがとうございます。イベントによって変わってくることもあるかなとは思ひます。そのイベントの一つですけど、夏休みが明けてすぐ9月の始めに5年生が水俣の学習に行くかと思ひます。26日に保護者説明会がありますけれども、子どもたちのほうから親元を離れているときに地震があつたら怖いっていう声がやっぱりあつたりもするかと思ひます。先生方もしっかりと避難の方法とか把握していらつしゃると思ひるので大丈夫とは思ひますけれども、子どもたちが心配しているところもあるかと思ひますので、その辺をしっかりとまた学校のほうでも説明をしてもらえたらなと思ひます。

○ 島田校長先生

8年生の子どもたちについては、おっしゃられるとおりで不登校であつたり学力であつたり、あと、先ほど村上教育長も言われたんですが、部活動の加入率が低いとか、全てそういうものに繋がっています。ただ、子どもたちはとても優しくて本

当に関係性もいいんですけども、地域未来塾やフォローアップスクールとか、寺子屋とか、そういうものの参加率も8年生は低いです。高くはないです。なので、その子たちが少しでも学校教育や行事もそうですけれども、何か意欲を持てるように、どうにかしなきゃいけないなっていうのは先生たちとも話しをしているところですし、ちょっと何か仕掛けていきたいなというようなところはあります。来年は学校を引っ張って行ってくれないといけませんし、12月には生徒会も変わって、今の8年生が主でやっていってくれますので、そういったところも期待を込めて、いろんなことをやっていきたいなというふうに思います。

あとフォーサイトについては、これはもう先生方も年度初めに何といいますか、形骸化しているところがあるような感じを言われていました。やってはいるんだけど、あまり効果が見られなかったり、やり方がちょっとどうかなというようなところが4月にあったので、まずこのフォーサイトをしっかり書き込む、考える時間っていうのを週1回どこかの時間で取ろうということで、毎週金曜日の6時間目が終わった後、部活動に行く前にしっかり考えて記入する時間を取って帰すようにしています。それですごく大きな効果があったかどうかということはまだ分かっていませんが、今はそれを継続しているような段階ですので、内容も含めて1年間かけて少し検討していきたいなと思っております。ありがとうございます。

○ 杉本校長先生

臨海学校、集団宿泊学習の件ですが、明後日保護者の方に学校から説明をしたいと考えています。県の施設に泊まりますので、熊本県が余震等の心配で対応できなければ、県の施設自体が受け入れを断られると思うんですよね。県からは、そういう対策は講じてあり利用可能であるということで返事をいただいていますので、施設は施設として何かしらの対策を立てておられることだろうなと思っています。また、5年生の担任が保護者説明会を前にして、実際現地に1回行ったんですが、再度もう1回行って施設等の確認や、有事の際の対応など、もう一回確認をして、全て今考えられる状態をつまびらかにして説明した上で、それでも時期を変えたほうがいいとか、そういったご意見が多くあるようであれば、この日に行かなくちゃいけないってということで今取り組んでいないので、向こうの施設等も延期できる日の締切り期限が今週末になっていますので、向こうには今お待ちいただいて、保護者への説明会の結果次第で時期を変えるとか、そういった対策を取ったほうがいいのであれば、話し合っていきながら対応したいと考えています。実際、子どもたちが水俣に行って学ぶことはとても意義があることで、それをやっている子どもたちとやっていない子どもたちというのは、何かしら社会性を身に付けていく上でも違うかなと僕は思っていますので、学校としてはこの集団宿泊を実施していこうと考えておりますけども、今度の保護者説明会の中で、そういう意見が多いのであれば、見直していくことも考えておりますので、そのような対応をしていきたいと思っています。

○ 井上委員

私も質問したいなと思っていたのは、先ほど石松委員がおっしゃった8年生の学

力っていうところだったので、そちらに対しては回答を頂きましたし、また先ほどお話しのありました小国高校の入学に関してですが、実はうちの息子も今年入学したばかりで、本人にその辺りの話しは聞きました。小国高校は言い方悪いけど別に前期で課題だったりをしなくても後期がある。だから前期は自分の行きたいところをちょっと挑戦してみたり、力試しとかやってみたいっていうところがあったみたいです。そういう流れもあったのかな。それに対して南小国の生徒たちは、ほとんどが前期で、だから中高一貫っていうところで来ているところ、その辺りの意識の高さに差が出ているのかなっていうところもあったみたいです。なので、小国高校の魅力というのをこれからどんどん中学生、小学生に発信していただければすごくいいのかなとは思いました。

あと、私のほうからは教育長からちょっとお話しがありました小中学校の電話機、カスハラ対策として自動録音機能の導入のお話しがありましたが、実際そういったクレームじゃないですけど保護者のほうから子どもの教育に対して、こういったものはどうなっているんだというような電話はあっているのでしょうか。実際、私はそういった話しがあまり耳に入ってこなかったんですけど、実はそういったものがあるのかなと思ひまして、ちょっと気になったところでもあります。その辺りあれば教えていただければと思います。

○ 島田校長先生

そうですね、何かこうお叱りを受けるような電話というのは、僕は今年4月から赴任していますが、ありません。相談とか、いろいろな連絡事項での電話はありますが、私が把握しているところでは、そのような電話はないかなと思っています。

○ 杉本校長先生

僕もいろんな学校を経験してきました。その中で一番これは困ったなと思うのが教頭をしていたときなんですけども、コロナが流行ったときで、ある保護者の方が子ども一人一人に消毒液を持たせてくれと言われまして、医療関係者の方だったんですけども、保護者としてとても心配され、子どもに持たせてくれと。いや、教室内に設置してあります。いや、それじゃ子どもはしないかもしれないってことで1時間ほどずっと話しをして、学校としての対応はこういうことだと、教育委員会の協力をいただいて自動ディスペンサーも用意してもらっていますと話しをして、1時間ぐらい経って分かりましたということで承諾いただいたんですけども、その日の昼休みに今度は別の保護者の方がコロナワクチン接種反対のビラを配らせてくれと来られまして、もうその時はどうしようもなく困りました。そういうことに関しては、何と言いますか子どもをどうのこうのというよりも、その保護者の方の考え方とかそういったことが強いので、それはもう僕はちょっとクレームに入るのかなと思うんですけども、僕が小国小に来てそういったことはありません。お叱りと言いますか、お尋ねがあるときは学校側もその対応が丁寧でなかったりというところで、そういうふうにお尋ねをいただけるので、ありがたいなと思っています。小国は本当にないなあと感じているところです。

○ 村上教育長

1件最近あったのは、教頭先生が一番電話を取られますが、頭ごなしに強く言われるということはありません。教育委員会も本来ならつけてほしいところですが、やっぱり1時間以上話す人とか最近もありましたが、学校に求めるのは先生方の対応もとにかく丁寧な対応というところで、そういった意味も業務の正確性とか、録音させていただきますと言うことで向こうの方にも落ちついて話していただくというようなところ、今はないので要らないではなく、あるかもしれないので是非というところでの対応です。これは録音されています、させていただきますという一言が入っての電話だけでも随分違うんじゃないかなと、あってからでは遅いということで教育職員に関する業務量管理・健康確保措置というようなところでは、いろいろな市町村、自治体も学校に先ずということで小国小学校、小国中学校も切羽詰まった状況ではないんですが、備えてというようなところをお願いするところです。予算は付いているわけではありません。

○ 渡邊町長

私からは一つだけ、台湾に去年中学生が22人行って国際交流をしています。私の実感と言いますか、できるだけ若いときに行っておくと視点が全然変わってくるような気は凄くします。実は昨日、職員採用試験の面接があつて、そのときに来た方が何が今までで1番だったか、視点が変わりましたか、みたいな話しをしたときに、中学校のときにシンガポールに行つて、いろんな言葉で書かれている看板を見たときに、すごく視点が変わりましたと咄嗟にお話しをされていたので、そういったところも含めて、やっぱり異質なものに触れるとか、異文化が身近にあるといった経験はなかなか小国では、昔に比べてはあるかもしれませんが、なかなかないと思いますので、できれば今年度も3月に行つていただきたいなと考えてはいるんですが、なかなか教育委員会側から出てこないの、この場で言つて、教育委員の皆様方はどうお考えになられているのかなと思つているのが1点と、もう一つお聞きしたいのが、台湾に行かれたことがある方は分かるのかもしれないですし、ただ子どもたちがどんな反応をしているのかつていったところは、やっぱり教育委員会の皆さんも代表でも構いませんし、全員でも構いませんけども行つていただいて、子どもたちの反応の部分を実際に見ていただきたいなと思つているので、子どもたちが行く部分、自らがちょっと確認ではないですが行つていただく、その二つどういったご意見があるかなと思つて、今日お聞きしようかなと思つております。

○ 木下委員

みんなの意見というわけにはいかないの私の意見ということで、できれば僕は中学校の修学旅行をそういったものに充ててもらえないかなと思つています。1回そういう目論見をしたけど、なくなったというのはお伺いしているんですけども、あのときは確かに大阪万博もあつたので惹かれる部分もあつたのかもしれないし、ちょっと唐突だったのかもしれないんですけども、我が家で話す分には、何で大阪に変わったんだろうつていう話ししか出なかったぐらいで、修学旅行が1番みんなで行けるし、ベターじゃないのかなと思つています。

○ 時松委員

私の体験なんです、手話を習ったときに初めて使うときドキドキしたんです。記念館に来られた方で、手話が必要な方に初めてしたときに伝わった、それがものすごくうれしくて、そういう体験を中学生、小学生の方、若いうちについていうのは本当に分かります。英語も習ったものが伝わったときのその感動、それでまたコミュニケーションもこれまで以上にいろいろやっていきたいって思えたら、自分からやっていくんじゃないかなと、開いていくんじゃないかなと思いました。

○ 石松委員

私も我が子たちにはぜひ行ってほしいなと思っておりまして、小学校から修学旅行でも中学校の修学旅行でもどんどん行ってほしいなと思っております。海外に行くというのは確かにいろんな体験ができるなど、自分の体験上も思っておりますので、もうどんどん行ってどんどん交流して、どんどんいろんな言葉に触れて、文化に触れて、現地でしか体験することができないものを全て感じてほしいなと思っています。

○ 井上委員

機会があれば本当に台湾いいですね。修学旅行で台湾っていう話しも、あの時は確か保護者全員の一致した意見が貰えなかったからとかっていう話しもあったりなかったりでしたけれども、今回と言いますか前回の時も参加希望の方だけでもそうやって参加できるっていうのは本当にいいと思います。大人になっても飛行機に乗ったことがない、海外に行ったことがないっていう方もいらっしゃる中で、小国町の協力のもとこういった機会があるっていうのはすごくいいことだと思いますので、是非できるものがあればお願いしたいと思います。先生方は大変かと思いますが、よろしくお願いします。

○ 渡邊町長

ご意見ありがとうございます。士林小学校の子どもたちがこの前来られました。体育館に私も行きまして、閉会の際の反応として、言葉は通じないかもしれませんが、何か言葉以上のものがつながっているといいますか、子どもは多分余計にそういうのが多くて、実は今うちの孫が保育園で同じクラスに外国の子が来られたことで、全然日本語は喋れないみたいなんですけど、全然普通に遊んでいるようです。やはりできるだけ早い段階で訪れるほうが何となくいいんじゃないかなと思っているのと、修学旅行ですが、3月に提携の3周年がありますし、中学校は1周年の記念があるので、それならまた今回は前回と同じように行きたい人たちだけで、意欲ある人たちだけで何年か続けると修学旅行みたいな話しになるのかもしれませんが、何年かはこの方向でやっていったほうが、せっかく士林の区自体がバックアップしてくれていますので、修学旅行で学校の交流だけではなかなか得られないものもたくさんあると思いますし、できれば士林中学校の生徒にいろんなところを案内してもらいながら一緒に行動したり、夜市ではないですけどそのような市と一緒にいくとか、そういったところまでできればすごく交流も進んでいくんじゃないかなと思いますので、そういったところは教育委員会でまた考えていただ

いて、補正予算を上げていただければというふうに思いますので、よろしくお願いします。

閉 会

事務局：大蔵総務課課長補佐

会議に使用した資料一覧

1. 令和8年度第1回小国町総合教育会議次第
1. 令和8年度第1回小国町総合教育会議出席者名簿
1. 小国町総合教育会議設置要綱
1. 説明資料（小国町教育長・小国中学校長・小国小学校長）